

2017年5月度分析

提出者数 124名の提出がありました。登録者は138名、提出率は89.9%です。前月より3名増えて、昨年比では21名の減となっています。暑い日々が続いていますが、みなさま体調には十分気を付けて、引き続きのご提出を宜しくお願いいたします。

収入 給料は前年比で（夫）97.5%、（妻）99.6%と減少傾向にあります。逆にパートアルバイト収入（夫）が前年比194.3%、（妻）103.7と伸びています。内訳をみると60代以上と年金世帯でともに前年比200%超えと突出しており、働けるうちはできるだけ働きたい、もしくは働かざるを得ないと考える世帯が増えているようです。

非消費支出 税金・社会保険料については（夫）が軒並み前年を割っているのに対し、所得税（妻）が前年比103.3%、住民税（妻）で同じく150.5%、そして厚生年金（妻）でも110.8%と揃って増加しています。伸び悩む夫の収入を、妻が補てんしている様子が見てとれます。また個人年金保険が前年比122.8%であることから、公的年金だけでは不安に感じている人や、将来のために自助努力をしておこうと考える世帯が多いようです。非消費支出は働き盛りの世帯ほど負担が大きく、削減は非常に難しいですが、ライフステージに合わせた生命保険の見直し等、面倒でもできることからコツコツ始めてほしいです。

消費支出 保健医療費が前年と比べ102.2%と増えています。ケガのため入院と手術を受けた方がいらっしやいました。他の費目は全て前年比マイナスで全体的に節約傾向にありました。興味深いのは60代と年金世帯のランキングが全く同じだということです。1位は食費で、ゴールデンウィーク中に子や孫の帰省があり、外食を楽しまれた方があったようです。また少量でいいから上質なもののや、身体のために良いものを食べたいと考える健康志向の方がこの年代に多いのではないのでしょうか。また、交際費をおさえて教養娯楽費が3位に入りました。国内はもとより海外に出かける元気なアクティブシニアが昨今増えているようです。しかし、ある程度自分のためにお金を使える世代とは違い、40代や50代では相変わらず教育費の負担が大きく、大学や高校の授業料納入方がありました。50代で子どもの車を購入された方、40代では子ども用メガネが被服費で計上されています。この世代の子どもへの出費や投資は致し方ないことですが、計画的かつ賢くやりくりしながらお金のかかる時期を乗り切ってほしいと思います。

ランキング

	総 合	20～30代	40代	50代	60代	年金世帯
1	食費 68469	税金 70234	社保 95431	税金 97063	食費 68000	食費 66941
2	税金 64582	社保 65514	教育 81577	社保 95532	税金 47050	税金 41331
3	社保 53906	私保 62719	食費 66340	教育 88271	教娯 30122	教娯 28038
4	教育 42341	家地 54973	税金 60800	食費 74466	交際 26696	交際 26895
5	職主 32150	食費 48488	家地 49793	私保 45545	職主 23261	職主 19773
6	私保 31130	職主 39993	職主 42295	自動車 45209	私保 19169	私保 18837
7	教娯 26857	教育 38992	私保 32598	職主 41074	水光熱 17824	水光熱 17995